

2 調査対象の整理と視点

2-a 調査対象の整理

紹介する自治体とそのネットワークを組む地元の支援機関について、人口規模とネットワークの支援機関数で整理すると、p10～11の図のようになりました。

この整理図では、ネットワークを構成する支援機関数が11以上の都市は、政令による指定都市や中核市となっており（帯広市は18町村と連名のため例外とする）、支援機関数の多い都市には人口規模が大きい都市が集まっていました。

2-b 調査の視点

調査対象となる17の自治体において、「自治体の担当者」、「ネットワークを構成する地元支援機関の担当者」、「ネットワークによる連携支援が行われた結果、創業に至った創業者」という3つの立場の方から直接お話を拝聴するにあたり、次のような視点で確認することにしました。

- (1) 支援機関数が多いネットワークは、新規性の高いベンチャーなど幅広い創業に対応した支援活動を実施しているか
- (2) 支援機関数が少ないネットワークは、支援テーマや支援対象を絞った活動を実施しているか

- (3) 人口規模が小さいネットワークの活動の特徴について
- (4) 支援機関の多様性（組織形態の多様性）に何らかの関係性が見られるか
- (5) 支援メニュー（内容）の多様性に何らかの関係性が見られるか
- (6) 支援テーマや支援対象（業種や性別など）を絞った活動の特徴について
- (7) 支援期間（期間の長さや支援段階の多さなど）の特徴について
- (8) 支援範囲（市域・町域）の特徴について
- (9) 連携した創業支援から生まれた創業者の特徴について
- (10) 創業者が活用した支援メニューの特徴について

